

西田幾多郎「読書」

西田幾多郎による読書の薦めの文章。初出：京都府立第一中学校編纂「読書の栞」1916(大正5)年

身体の成長には食物の欠くべからざる如く、精神の発達には精神の食物ともいふべき読書を廃してはならぬ。我々は幼より老に至るまで、一日も精神の向上的発展を忘れてはならぬ様に、読書は単に在学の時代のみならず、終生之を怠ってはならぬと思ふ、学校を出でたる後でも、読書を廃するものは思想固定し、時代の進歩に伴ふことができず、身体は尚健全であつても、早く既に時代遅れの老朽として、社会から棄てられる様にならねばならぬ。明治の元勲の中でも比較的長く時勢に伴ふことのできた人は読書の趣味のあつた人であると思ふ。而して終生世に遅れぬ様に読書の習慣を養成するには中学時代から早く之に意を用ゐねばならぬと思ふ。

多くの人は読書は単に知識を得るに過ぎぬとのみ思ふが、真摯なる読書は、読書其事が意志を鍛錬し、人物を作るに益があると思ふ。運動によって強固なる意志を鍛錬し得ると思ふ人もある様であるが、余の考では、運動は筋骨を強くし、間接に意志を強くするかも知れぬが、直接に意志其者を強くするとは云はれない、少くも深き意味に於て意志の鍛錬とはならぬと思ふ。運動にのみ趣味を有するものは思想は粗笨となり、感情は遅鈍となり、到底精細なる理を考へ、深遠なる情を味ふことができず、少しく複雑にして深遠なる問題に撞着すれば、忽ち進取の氣象を失うて、勇氣沮喪し、強ひて少しく勉むれば遂に神経衰弱に陥るに至る、余は運動家なるものが試験前に最も多く神経衰弱に陥ると思ふ。真に強固なる意志は却って奮つて難解の書をよみ、進んで難問題を考へ、何処までも徹底的に解決せざれば已まざる気力によつて養成し得ると思ふ。

余の考では、書を読むには、自分に少し難解の書を読む方がよいと思ふ、我々が峻険に攀登る如き考にて難解の書を読む方がよいと思ふ。無論難解といつても、己の力に相応ぜない難解の書をよむのは何等の益もないのは言ふまでもないが、自分が独で能く考へて分り得る位の程度に於て、難解の書をよまねばならぬ。何時でも粥の様なものばかり食つて居る人は却って胃弱に陥る様に、何時も易い書のみ読んで居る人は思考力を弱くすると思ふ、当今の雑誌や小説ばかり読んで居るものは皆脳弱に罹つて居ると思ふ。次には最も良い書を精読せねばならぬ、幾度も繰返して精しく考へて読まねばならぬ、兎毛程も曖昧の所がない様に分らうと思はねばならぬ。自分が一通り分つて居ると思つても、その上、その上と疑うて見なければならぬ、斯くして疑問は影の如く自分に従ふ様になる、精読といふのは疑ふことである。余の経験によれば、自ら分つて居るとか、出来るとかいふ学生に限って、その実分つて居らず出来もせぬものが多いのである。これはつまり精しく深い反省が足らないのである。諸君も知らるゝ物徂徠といふ人は初め大学一冊を精読したといふことである。

右の如き理由からして、余は先づ何といっても、古典的なものを読まねばならぬと思ふ。東洋の書であつても、西洋の書であつても、古典的のものを読まねばならぬと思ふ。此頃の学生の如くに雑誌や小説ばかり読むのは、間食と同じく、害あつて益がないと思ふ。無益の書を多読するのは却って思考力を乱すものである。ホッブスは余も他人の如く多く書を読んだなら、他人の如く無学であつたらうと云つたと云ふことである。難書を漫読するは壺に種々の弊害あるのみならず、此種の読書は決して真に読書の趣味を生ずるものでないと思ふ。

人の天賦の各と異つて居るのであるから、主要なる学科に於ける良書を精読する外、尚余裕のある人は、多くの書を広く読破するがよい、又如何なる人であつても始終むつかしい書を読んで居る訳にも行かぬのであるから、慰の為めの書をよむと云ふこともよいことである。併しさういふ場合には必ず真面目に先輩に相談するがよい、悪しき書を読むは悪友に交ると同じ害があると思ふ。

(底本：『西田幾多郎全集（新版）』第11巻)

* この文章を Google NotebookLM（試行サービス）に解説してもらった音声を

右の QR コードから聴くことができます。お試しください（2025 年 6 月 7 日作成）。



* この文章の一部は、石川県西田幾多郎記念哲学館で販売している文庫本用ブック

カバーでも引用しています。表面には西田幾多郎による「無心」の書が印刷されています。



* 西田幾多郎は 1938（昭和 13）年に雑誌『改造』にも「読書」についての

エッセーを書いています。以下の文庫本や青空文庫にも収録されているので

合わせてお読みください。

上田閑照編『西田幾多郎随筆集』（岩波文庫）1996 年



金沢大学附属図書館「思考の森」企画展「西田幾多郎先生の読書のススメ」関連資料

作成：2025 年 6 月 7 日 金沢大学附属図書館 貴重資料担当